

2023年度(2024年3月期)第2四半期決算 主な質問と回答

- Q. 受注高が期初予想を大きく上振れた理由は。
- A. 製品納期長期化に伴う前倒し受注や為替影響の剥落をふまえ前年同期比で減少すると予想していたが、主に国内のEV・バッテリー向け投資がけん引し、環境試験器、エネルギーデバイス装置、受託試験が想定以上に増加。特殊要因として、9月の製品値上げ前のかげこみ受注、為替影響、事業譲受による影響もあった。
- Q. 売上高が期初予想を上回ったが、部品調達や製品リードタイムの改善状況は。
- A. 部品調達は在庫の積み増しなどにより、汎用性の高い標準製品は製品リードタイムが改善、売上高の拡大に貢献した。一方、カスタム製品の調達はいまだ不安定、製品リードタイムも十分には改善しておらず、正常化には時間を要す見込み。
- Q. 営業利益率について、特にサービス事業が期初予想を上回った理由は。
- A. 増収に加え、アフターサービス・受託試験サービスの価格見直し、および受託試験における電気料金の低下により原価率が改善したため。
- Q. 下期の受注高予想が上期実績を下回る理由は。
- A. 上期は製品値上げ前のかげこみ受注や事業譲受による影響もあったため、上期の勢いは落ち着くが、EV・バッテリー向けを中心に高水準を維持するとの認識。
- Q. 調達が改善するなか、下期売上高・営業利益予想は保守的ではないか。
- A. カスタム製品の生産が下期に偏重、また販管費が期初予想よりも増加する見込みであり、慎重に見ている。部材・リソース確保に全力を挙げ、前期比増収増益を目指していく。
- Q. 日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社の事業譲受による業績影響は。
- A. 2023年9月に事業譲受。事業立ち上げに時間を要すことから、今期および来期の連結業績への影響は大きくないと見ている。

本資料は、決算に関する主な質疑応答の要旨を記載したものです。

本資料に含まれる将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予測したものであり、実際の業績などは今後の様々な条件・要素により異なる場合があります。